

首都高速ゼネコンから技術者

高度施工管理確立へ

品川線シールドを担当 設計変更協議に活用

首都高速道路は、高度な施工管理手法の確立に向け、建設会社から60歳以上の技術者を採用することを決めた。既に2人の採用が内定しており、首都高速中央環状品川線シールド工事の施工管理を担当する見通し。経験豊富な技術者を採用して施工管理体制を強化し、現場確認中心の管理手法に川上段階からの管理を加えることで、資材製作や運搬などのリスクの早期発見による品質の向上やリスク分担の明確化、円滑な設計変更などにつなげたい考えだ。

同社は、品質や安全の場運びから確認確保に向けた長期的な対するが、例えばシールド策として施工管理の高度トンネルのセグメントを化を目指している。現在、製作工場の段階で確認する工事で使用する資材は現るなど、より川上段階か

ら確認して品質にかかわるリスクを早期に見てきるような体制を構築したい考えだ。リスク分担の明確化や設計変更協議

期間の短縮にもつながる。このつた高度な施工管理手法は、既に施工者が新たに経験豊富な技術者を採用する。

中央環状品川線（施工Ⅱ鹿島・熊谷組・五洋建設JV）で採用する予定で、

施工管理に当たる技術者は、外径10以上のシールドトンネル施工技術を持つ建設会社の中から、60歳以上の技術者を対象に、品川線が完成する2013年までの雇用を条件（希望者は延長あり）として、首都高速技術センターが募集した。この結果、2人の採用を決めた。

今回の品川線シールドトンネル工事のほか、今後、高度な施工管理手法の構築を進める見通し。

20年 1月 16日

建設通信新聞